

2022（令和4）年度 京都大学 入試問題 文系 第2問 解答例

問一

ある物語から他の物語が派生し、登場人物の語る物語中の人物がさらに別の物語を語る、分岐し続ける物語の発想法。

*ただ「無限に増えていく」といったことではなく、入れ子構造や樹形構造のように分かれていく増え方を説明する表現が必要である。

*たとえば、「これ（主題）は彼の大好物（述語）である」として、「これ」を説明せよと言われたら、正解は「リンゴ（食べ物）」などであって、「彼の大好物の～」と答えるとするれば、明らかな論理的誤謬であろう。一般に、「傍線部の説明」には、まず傍線部を含む一文の確認から入るのは当然であるが、解答字数が余っていても、傍線部直後の「アラビア文化圏特有の存在論」云々は含めないこと。

問二

読んだ書物の内容を的確精密に要約してみせる友人と比べ、筆者の読書の仕方は、読む過程で思念の動きが気ままに膨張し、内容を整然と語れない不正なものと思われたから。

*「ある後ろめたさ」を感じたのはなぜか、という理由説明の問いである。その解答の述部に傍線部の述部（の言い換え、「後ろめたさ」の同義語）を書くのは、トートロジーになってしまい、当然論理的誤謬である。同義置換をして理由説明の解答になるのは、「なぜ泣くのか？ 悲しいから」といった場合のみである。

*「紹介したり説明したり」は具体例なので、解答には書かないこと。

問三

読書の過程で刺激された思念や想像の働くまま、早急に読み切ろうと執着しないことは、無心で他者の精神に接し、確実に体系的な知識の修得、客観的精神や認識と実践の統一へと至る、正しく健全な読書態度ではないと思われるから。

*「筆者（S）が言う（P）」（主体の言動・心情の記述）というタイプの傍線部の理由説明は、主体の主観（動機・意図など）で結ぶ。ここは「～と思われるから。」など。

問四

半ば無自覚に耽溺した読書内容の記憶をほとんど失うことは、各自の精神の選択による純化を経て、大半の読書内容が顕在的な意識上から一旦消失することで、精神の自立を促す創造的読書の契機となると経験的に確信されるから。

*主題A「その〈忘却〉」についての、述語B「意味がある」という判断の理由説明であるから、解答の構文は、「Aは Cだから。」となる。筆者自身が「創造的読書」は「必ず

この忘却を一つの契機とする」と述べているように、「〈忘却〉」そのものの意義を積極的に解答するのであって、消極的に「〈忘却〉はするけれど、～」と消極的な構文で解答してはならない。

* 「精神の濾過器」という比喩表現を一般的表現に置換すること。

問五

読書過程で刺激された思念や想像が分岐膨張するに任せ、半ば無自覚に耽溺するという、筆者の個性に合い、人生上の重要性が高い読書の型における、無目標だが存在の根底からの渴望から発する、精神の自立をもたらす豊饒な創造性。

* 設問文には、わざわざ「筆者にとっての（読書の本質）」という限定的な解答誘導（出題者からのメッセージ）がある。一方、傍線部以後の二段落は、「なお〈邪読〉は〈邪読〉」「他の読書のあり方を排除すべき権利も理由もない」「各人がその人の個性にあった読書のかたちを造り出せばいいのであろう」などと、表面的には物分りのよさそうな「譲歩」がなされている。しかし、だからこそ設問の要求は「筆者にとっての（読書の本質）」なのである。また、筆者も最終段落で「人生」にたとえながら、「しかしまた、～人は一つの読書のあり方に比重をかけたまま、その生を終わらざるをえないのであろう」と結んでいる。これらを見逃して、安易に全体の均一な圧縮をもって解答とすること、（たとえば、「読書の本質は各人様々である。しかし、筆者にとっては～である。」などですますこと）はできない。むしろ解答には、「**筆者の個性にあった、筆者の人生において比重をかけた**」という趣旨を、譲歩ではない形で積極的に明記すべきなのである。

* 上記解答中の「無目標だが存在の根底からの渴望から発する」は、一見、単なる「各人」の「読書態度・読書の型」の具体例の一つでしかなく見える。しかし、その各人様々な例のなかには、筆者のケースも含まれている。筆者にとっての「読書の本質」とは、「何か確実な、具体的認識をうるためというよりは、パスカルの言う〈悲惨なる気晴らし〉に近かった」＝「妄想的・耽溺・忘却・〈邪読〉」＝「無目標なしかし存在の奥底（＝「即自有としての自己」）からの渴望から発する」ものである。これを解答要素として見逃すべきではない。解答欄は「一行 25 文字程度」で 4 行あれば、十分に書ける。

* そもそも「〈邪読〉」とは、すべての学問や芸術、さらに人生にすら言いうる、「合目的性（何かのための手段）に抗う、自己目的性（それ自体の存在意義）」を表すのであり、既存の規定から脱することでもある。具体例的な箇所であっても、随想なのであるから、しかも京大の問題なのであるから、簡単に排除せず、内容を正しく読解して解答化した。